

科目	心理学研究法Ⅱ	単位数	2
担当教員	亀島 信也		
履修対象	心理科学科 2 年秋学期		
概要と目的	さまざまな心理学実験、観察法、調査法と、その多様なデータ収集方法などの知識を修得する。		
達成目標	「知識・技能」 (1) 心理学を研究するさまざまな方法を正確に説明できる。 (2) 心理学論文執筆に必須な研究デザインを作成する基礎的技能を持つ。 「思考力・判断力・表現力」 (1) 実験研究や観察研究などの基礎的手法が望ましいかを判断できる。 (2) 実践研究や精神生理学研究などの応用手法が望ましいかを判断できる。 「主体性・多様性・協働性」 (1) さまざまな心理学研究法の面白さから主体的に学習する意欲が高まる。		
授業計画			
1	講義予定と講義内容、成績評価、注意事項などを説明する。		
2	心理学研究法を概観し、心理学研究法を分類する。		
3	実験法 1 実験における統制を学習する。		
4	実験法 2 実験の妥当性や仮説・構成概念を説明する。		
5	調査法 1 心理調査と社会調査を区別する。		
6	調査法 2 心理尺度の信頼性や妥当性を検討する。		
7	観察法 1 観察研究の立場を理解する。		
8	観察法 2 観察データの信頼性や妥当性を検討する。		
9	面接法 1 面接法の研究計画を学習する。		
10	面接法 2 面接データの質的分析を検討する。		
11	実践研究代表的な実践研究について学習する。		
12	精神生理学的研究 1 脳や神経系の概略と生理指標の種類を学習する。		
13	精神生理学的研究 2 いろいろな研究の実際を概観する。		
14	心理学論文執筆法を再考する。		
15	心理学研究法Ⅱのまとめとして今学期学習した内容を復習する。		
授業形態／具体的な内容	講義		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
Progress&Application 心理学研究法	村井潤一郎	サイエンス社	2,200 円
参考書			
成績評価の基準・方法	基準 さまざまな心理学を研究する方法や手順を説明できれば合格とする。 方法 単位認定に関しては、定期試験で判断する。 定期試験については、担当教員による講義の理解を問う（80％）。 講義中や補講期間中に小テストを行うこともあるので注意すること。 事前に講義ノートを入手することや、質問などによるクラス参加度を評価する（20％）。		
留意点			
準備学習	開講初日に詳細なシラバスを配布するので、それに基づき週に 2 時間程度の準備学習を期待する。 各回の講義前に講義ノートを手し、シラバス掲載の教科書の部分に目をとっておくこと（1 時間程度）。 各回の講義後に講義ノートを参考にして復習しておくこと（1 時間程度）。		
備考		No.	PY621017